

内分泌攪乱化学物質問題への 環境庁の対応方針について

- 環境ホルモン戦略計画SPEED'98 -

1998年5月

2000年11月版

環境庁

目次

はじめに	1
内分泌攪乱化学物質問題について	2
1．内分泌攪乱化学物質とは	2
(1) ヒトや野生生物等への影響	
(2) 内分泌攪乱化学物質の定義	
(3) 内分泌攪乱化学物質の作用メカニズム	
2．スクリーニング・試験法について	9
3．調査研究に当たって考慮すべき事項	10
4．天然女性ホルモン等	11
(1) 人畜由来女性ホルモン等	
(2) 植物エストロジェン	
本問題に対する環境庁の対応状況と今後の方向性について	12
1．基本的な考え方	12
2．環境庁の取組状況と今後の対応方針	13
(1) 環境中での検出状況、野生生物等への影響に係る実態調査の推進	
(2) 試験研究及び技術開発の推進	
(3) 環境リスク評価、環境リスク管理及び情報提供の推進	
(4) 国際的なネットワーク強化のための努力	
世界の取組の動向について	19
1．米国の取組	19
2．英国の取組	19
3．経済協力開発機構（OECD）の取組	20
4．欧州委員会（EU）の取組	20
内分泌攪乱化学物質問題に関する年次経過	22
本文書を作成するにあたって参考とした文献	26
（参考）内分泌攪乱化学物質問題検討会委員名簿	29

BOX	ホルモンの働きと機能する仕組み	4
BOX	PRTRについて	16
表-1	野生生物への影響に関する報告	30
表-2	人の主要なホルモンの作用及び過不足により起こりうる疾患	31
表-3-1	内分泌攪乱作用を有すると疑われる化学物質	35
表-3-2	優先してリスク評価に取り組むべき物質	37
図-1	人の主な内分泌器官の位置	31
図-2	代表的なホルモンの構造と作用メカニズム	32
図-3	内分泌攪乱化学物質の作用メカニズム	33
図-4	スクリーニング及び検査計画案の概要	34